

# 常滑市都市計画マスタープラン策定委員会

## 第2回議事録（概要）

開催日時：平成31年3月29日（金）10時00分～12時00分

開催場所：市役所3階会議室

### 次第

---

#### 1 議題

##### ○報告事項

第1回策定委員会での指摘と対応について（資料1）

##### ○協議事項

（1）将来都市像及び都市づくりの目標について（資料2）

（2）将来フレーム及び将来都市構造について（資料2、参考資料1～2）

### 議事内容

---

#### ■第1回策定委員会の指摘と対応について

（委員長）

都市再生整備緊急地域内の商業系低未利用地とは具体的にどこを指しているか。

（事務局）

りんくう町の商業地域内を指している。

（委員）

第5次総合計画で「農地については、その維持・保全及び活用を図ることにより、農業振興や良好な自然環境の形成を推進します。」とあるが、必要な開発等もあるなかで、農地は全て維持保全ということなのか。

（委員長）

開発は法律のなかで許可されている。都市計画マスタープランは方針なので、市街化調整区域の開発にブレーキをかけるのか、促進するのか（ある程度無秩序に開発されることを許容する）について議論をして方針を決めることとなる。

（委員）

市として市街化調整区域は、無秩序に開発されたと捉えているのか。それともまだ増やしていきたいと思っているのか。

（委員長）

無秩序に宅地化を進めてしまうと、人口が減少した時に過疎化してしまう。人口の増減に対応して土地利用を考えていかなければならない。文章としてわかりづらいのかもしれない。

（委員）

「不要な開発」ではなく、「無計画な開発」のほうがわかりやすいのではないか。きちんと計画

された開発であれば問題はない。

(委員)

都市再生緊急整備地域だと分かりにくいので、「りんくう町」や「空港島」といった都市再生緊急整備地域に指定された町名があるので、そちらで示したほうが分かりやすいと思う。

(委員長)

都市再生緊急整備地域は、注釈で説明することでいいと思う。

(委員)

関係計画について前回の委員会で示されていないものがあるが、総合戦略やアクションプランなどは関係計画に追加するという理解でよいか。

(事務局)

関連計画に追加する。

## ■将来都市像及び都市づくりの目標について

(委員)

「地域住民が主体となった身近なまちづくりの促進」とはどんなイメージか。維持管理をするということなのか。主体となるというよりか、連携というほうがいいのではないか。

(事務局)

例えば、生活道路を広げるにも建替え時にセットバックした用地を行政で維持管理するようなイメージである。主体という言葉は表現が強い気がするので、連携するといった表現に変更を検討したい。

(委員)

全般的に、若々しいまちづくりのイメージだが、もう少し高齢者や弱者も暮らしやすいまちだということが読み取れるような表現を加えてほしい。年をとっても安心して暮らせるまちづくりといった言葉が入るとよいと思う。

(委員長)

都市計画マスタープランでの議論は土地利用が中心であるが、どのような表現がいいのか検討していただきたい。

(事務局)

「心地よさ」という部分で誰もが暮らしやすいという思いはあったが、福祉をイメージさせるような具体的な目標を示せていないので、今後検討する。

(委員)

人口減少や高齢化の課題に対する目標が薄いのではないか。

低未利用地や空き家の解消をすれば、果たして良好な居住環境になるといえるのか。空き家が多い地域は狭隘道路も多いと説明にあったが、狭隘道路の解消も図ることにつながる方策なのか。

(委員長)

目標の表現が、比較的少し受け身なのではないか。課題を解決できればいいという程度の目標に読みとれてしまう。

(事務局)

市としては暫定用途地域が市内に存在することから、それを解消して良好な居住環境の創出を図ることや空き家対策についても、関連団体と協定を締結する等により、良好な居住環境の創出

に努めていく。

(事務局)

指摘のように文章が繋がらないところがあるので精査したい。空き家については防災に対する目標の意味合いが強い。未利用地も良好な環境を持った住宅地づくりなどと記述をしていきたい。

(委員長)

常滑市はどうしたら持続的で安全で良好な暮らしができるのかについて、都市の成長を見据えながら考えてほしい。常滑市の文化や自然などの良いところを大切にしてお不便さが解消できる雰囲気が出るといいと思う。

(委員)

人も車も入れない狭隘道路が、空き家問題が解決できない一番の原因なのではないか。老朽している建物も狭隘道路が原因で解決できていないのが実情である。都市計画マスタープランの方針として狭隘道路の解消を示せば未利用地、空き家問題がすべて解決できるのではないか。

(委員長)

狭隘道路の解消は難しい問題である。行政だけでなく住民の協力が必要である。

(委員)

古い良好な景観を残すためにやきもの散歩道周辺では助成をしている。一方で、狭隘道路があるため、住みにくい地域もある。何か方針として掲げればよいと思う。

(委員長)

ある意味、狭い道路は心地いい空間である。心地よさと利便性をうまく達成できればいい。常滑市はこれから愛知県の核になる都市なのでそういった市街地構成を考えていければよいと思う。

(委員)

細かな目標の部分にはあるが、生活道路の整備や福祉の観点で、バリアフリーの視点は最近国が大きく取り組んでいこうとしていることなので、その辺りの視点も目標に入れていければよいと思う。

(事務局)

人口減少、高齢化に対する目標にあわせて公共交通、バリアフリーの視点についても目標につなげて追加していくことを検討する。

(委員長)

公共交通は高齢者だけでなく、学生や子供を連れてお母さんなど交通弱者についても対象にして考えてもらいたい。

## ■将来フレーム及び将来都市構造について

(委員)

観光交流軸について、大野城址をスタートにして海岸の堤防を改修して、坂井海岸までつなげて歩ける公園化してはどうか。自転車などの利用もできるようにする。先程の狭隘道路や空き家も、旧県道と海岸の間に大半が密集している。堤防沿いから狭隘道路を広げる、空き家も壊して市が借り上げるなど対策をとることができると思う。堤防沿いの道から旧県道までのいくつかの道を広げてつなげれば救急車なども入れるようになる。観光、交通、福祉、コミュニティとうま

くいくのではないだろうか。

海岸を整備できれば、空港や離発着する飛行機、名古屋港に入る船舶などが見えて景観上も楽しめる。予算は大きくなるかもしれないが、海岸沿いの軸の強化を都市計画に入れてほしい。

また、里山補助を数か所で受けており、地域コミュニティの一環として里山保全をして散歩道をつくっている。こうした里山保全が広がれば、海から山へつなげることができ、市全域をループで回せることができる。今ある公園を歩道でつなぐ等をすればもっと活性化できるのではないか。

いろんな案があるが、それが10年の計画のなかで、どうつながるかがしっかり見えると思う。

隣の大府や東海は住みやすいと評価されている。私見では、公園がしっかりと整備されて有機的につながっていると感じる。常滑市も同じようにエリアとしてつながるとよいと思う。

(事務局)

具体的な表記はできないかもしれないが、今後参考にして検討していく。

(委員長)

河川や海岸線をつなぐというのは、土地利用に関連することなので検討してみてはどうか。海岸沿いに遊歩道があるのは市民にとって快適。とても良い提案だと思うので構想に入れられたい。

(委員)

農地保全ゾーンで土地改良事業を実施した中に農家の分家専用の住宅用地がある。現在、地目は畑や田だがきれいな住宅用地になっている。しかし、分家が建ってない土地は畑をするでもなく、家が建てられない状態になっている。このような所を流通させて住宅を建てることができれば、市外に若者が流出することも防げる。地域活性化にもなるし、土地の再利用にもなるし、農地保全する側面にもなると思う。

(委員長)

今、全国的に都市計画の分野ではそういった抜け道が問題になっている。個別に対応するのはよいが、制度として対応はできない。

人口動態を見て産業を考えた方がよいのではないか。

開発されないように古墳や史跡といったものを拠点に示してほしい。

(委員)

近隣市町との連携が必要と感じた。

(オブザーバー)

新しい動きとして地域住民のボランティアが主体となって、地域のなかを軽自動車が高齢者を送迎している事例がある。今後活発になり得るだろう地域主体となった公共交通についても計画に盛り込んでもらえればと思う。

(オブザーバー)

今後、地域別構想を検討するうえで、常滑市は北と南が弱いので、新たな魅力を見つけることを今後の課題としてもらいたい。

(オブザーバー)

今日、指摘のあった高齢者の視点を目標に入れてもらいたい。新しいところと懐かしいところを強調して取り入れられたらいいと思っている。

(委員)

今後ワークショップをやっていくと思うが、どういうメンバーでやっていくのか。できれば区をどうしたいか気持ちのある人に来てほしい。

(事務局)

区の代表に人選をお願いする形になる。区長には昨年度勉強会を開催し、趣旨を説明した上で、ふさわしい人を人選してもらえるように案内してある。

以上